

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校から家庭や地域への情報発信に努め、連携を強化するとともに開かれた学校運営を展開することにより、羽曳野市内唯一の公立高校として地域の教育・文化の中心的な役割を果たすことのできる学校をめざす。

1. 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向け基礎学力の向上をめざすとともに幅広い教養を身につけた生徒を育成する。
2. 豊かな人間性と社会性を兼ね備え、これからの羽曳野・大阪・日本の社会に貢献していく多様な人材を育成する。
3. 地域や他の教育機関との連携を密にした教育活動とともに、本校（前身校を含む）が社会に輩出してきた人的資源を活用した教育活動を展開する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

- (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、エリアの特色を生かした教育課程の実施に取り組むとともに、普通科総合選択制の改編に向けた検討をすすめる
 - ア 教務部とエリア会議が中心となって、生徒のニーズにより一層対応できるエリアのあり方を研究し、必要に応じてエリアの再編・整備も視野に入れた改善策を検討する。
 - イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、各エリアの授業の充実を図る取組みを推進する。

※普通科総合選択の生徒アンケートの中の『「普総選」で学んだこと』への満足度を段階的に引き上げ、平成 28 年には 85%にする。

 - ウ 普通科総合選択制の改編に向けた検討をすすめる。
- (2) 基礎・基本の学力定着から、課題解決に向けた思考力や表現力をはぐくむことをめざす授業改善に取り組む。
 - ア 「朝学」の学習内容の充実や各種検定への参加等を通じて、基礎的・基本的な学力の定着をはかる。
 - イ エリア会議でそれぞれのエリアの目標に沿った授業改善を検討するとともに、教務部や授業改善研究委員会を中心に授業公開や研究授業、生徒の授業アンケートなどを活用した授業改善に取り組む。また、習熟度別授業、少人数授業のあり方についても検討する。

※学校教育自己診断における生徒の授業満足度（平成 25 年度 41%）を毎年段階的に引き上げ、平成 28 年度には 60%にする。

※普通科総合選択制の生徒アンケートの中の「身についた学力」の中の、「考える力」（H25 79.3%）「表現する力」（H25 71.2%）「発表する力」（H25 60.3%）「コミュニケーション力」（H25 75.5%）「調べる力」（H25 71.7%）を、それぞれ引き上げ、平成 28 年度にはそれぞれ 80%以上をめざす。

2 基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築

- (1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組を推進し、遅刻指導を徹底する。
 - ア 遅刻撲滅に向けた校内取組体制を全教員の共通理解のもとで再構築するとともに、家庭との連携協力体制を確立する。

※生徒の年間遅刻総数（平成 25 年度 1585）を毎年段階的に減少させ、平成 28 年度には総数 1000 以下にする。

 - イ 全教員による朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
 - ウ 制服指導や交通マナーなどの向上に向けた講演会や講習会を計画する。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒（平成 25 年度 75%）の割合を毎年段階的に引き上げ、平成 28 年度には 85%にする。
- (2) 教育相談室の整備と相談教員の常駐体制を確立する。
 - ア 教育相談委員会を中心に生徒情報の収集に努め、全教員でこれを共有するとともに、学校として家庭・地域との連携を密に行う。
 - イ 支援教育コーディネーターを中心に、課題のある生徒に対する個別支援の取組みを推進する。

※学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合（平成 25 年度 53%）を毎年段階的に引き上げ、平成 28 年度には 70%にする。

3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立と指導・支援の充実

- (1) 進路目標設定から進路実現まで 3 年間を見据えたキャリア教育を展開する。
 - ア 高い志を持ち続けることができるよう、「自分を知る」をテーマとした進路学習の指導計画と、授業や「総合的な学習の時間」と LHR の時間を連動させた年間指導計画を策定し、生徒の進路実現をはかる。

※生徒の進路希望実現率（3 学年当初の進路希望の実現率・「決定数／当初の希望数」）を毎年 90%以上をめざし、進路未決定者を減少させる。

(H25 実現率 87.7% 大学・短大 103/103 専門学校等 59/58 公務員 2/15 就職 15/17 未決定<浪人を含む> 25/12)

※普総選アンケート「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある」（H25 62%）「自由選択科目は進路を実現する力をつける上で役に立った」（H25 70.7%）を毎年段階的に引き上げ、平成 28 年度はそれぞれ 10 ポイントアップをめざす。

※大学や専門学校による出前講義実施後のアンケートにおける生徒の肯定的回答率を 90%以上にする。

 - イ 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、サービス接遇検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
 - ウ 近隣大学（四天王寺大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
- (2) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。
 - ア 3 年間を通じた人権教育の指導計画を策定し、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。

4 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり

- (1) 地域と連携した取組みを推進するとともに、広報活動を強化して学校の魅力を発信する。
 - ア 生徒の出身中学校訪問、学校説明会への参加、地元の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高めるとともに、本校の特色を広く周知するよう努める。
 - イ ICT の活用等により情報化・効率化を図り、教職員が時間的・精神的な余裕を持てる環境を整備するとともに、積極的な情報提供、広報活動を展開する。
- (2) 地域と連携した、安全・安心、環境美化・保全等の取組みを推進する。
 - ア PTA と連携しながら、あいさつ運動や校外清掃、環境美化の取組みを推進する。
 - イ NPO 等と連携しながら、生徒とともに地域の環境保全活動に取り組む。
 - ウ 地域の外部人材を活用しながら、生徒や保護者や地域を対象とした土曜講座等を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】 肯定的回答率が昨年度より 5 ポイント以上増加した項目は「他の学校にない特色がある」「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」「人権について学ぶ機会がある」等、25 項目中 10 項目あり、全体としては、肯定的回答率が増えた。一方、5 ポイント以上減少した項目は、「学校行くのが楽しい」「入学してよかった」「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の 3 項目（いずれも昨年度、5 ポイント以上増加した項目）となった。生活習慣や学習規律確立のための指導により、成果が上がっていることに対し、実感が伴っていないことが表れているのではないかと考えている。今後は、生徒自身の自主性を育みながら、自信と達成感を実感できる取組みも進めていく必要がある。</p> <p>【学習指導】 「発表する機会」「授業はわかりやすい」「授業への充実感・満足感」「教員の授業見学」等授業に関する項目の肯定的回答率はいずれも 5 ポイント以上増加し、授業改善の取組みは一定の成果があったと考えている。ただ、「授業時間の以外の学習」「補習講習への参加」は依然として低い水準で、学習意欲や能動的な学習活動には課題がある。家庭学習を含め授業以外での学習を喚起する取組みや機会の確保が必要である。</p> <p>【生徒（進路）指導】 「マナーやルールを守っている」「日常的にあいさつをする」は昨年と同様高い水準である。また、「相談できる体制」「困っていることに真剣に対応」など、教育相談に係る項目は昨年度より、5 ポイント以上上昇している。「厳しく」「寄り添う」生徒指導の成果は上がってきている。また、「進路に関する情報提供」「進路を考える機会」「外部の先生から授業と話を受ける機会」の肯定的回答率は 7 割を超えているが、今後とも生徒の進路意識の高揚のための進路指導の充実を図っていききたい。</p> <p>【その他】 「人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率が昨年度より、10 ポイント以上上昇した。今後とも総合的な学習等を活用しながら、豊かな人間性を育む取組みの充実を図りたい。</p>	<p>第 1 回 (H26. 7. 28) 【学習指導・進路指導について】 ・普通科総合選択制の学校として、生徒の興味・関心のある分野を伸ばしてほしい。 ・大学入学後も、自分のやりたいこと、勉強したいことをもっている生徒が伸びるので、学ぶ意欲を育む取組みをさらに充実させてほしい。</p> <p>【学校情報の提供について】 ・ホームページの充実をさらに図ってほしい。特に PTA のページの充実を。</p> <p>第 2 回 (H26. 12. 18) 【普通科専門コースへの改編について】 ・これまでより選択の幅が狭くなるということのようなので、普通科総合選択制と専門コース設置校がどう違うのかわかるように広報して行ってほしい。 ・入口は普通科の学校で、2 年次より専門的なことが学べるコースがあり、次のステップ（進学）のために有利というような言い方はどうか？</p> <p>第 3 回 (H26. 3. 6 実施予定) 【経営計画の評価について】 ・遅刻の大幅な減少や授業改善の取組みなど、ここ数年間の中で最も成果が上がった一年であった。「満足度」の数値が減少しているが、欲求度が高くなると、満足度が低くなる傾向になるので、悪いことではない。満足度と進路保障のための「厳しい」指導との兼ね合いをどうするかを考えていく必要がある。また、学校の取組みを中学校や保護者にどう伝えていくかも大切である。 ・これまで懐風館を受けていた生徒が私学に専願で受験した。志願者の減少には SNS による断片的な意見が影響した面もあるが、私学の影響が大きい。 ・保護者説明会等の機会を通じて、PTA としても懐風館の良さを伝えていくことに協力したい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	<p>(1) エリアの特色がより明確となる教育課程の編成 ア 教務部やエリア会議を中心としたエリアの再編整備を視野に入れ、カリキュラムの改善策の検討 イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、各エリアの授業の充実を図る取組を進める。 (2) 「分かる授業」「思考力・表現力をはぐくむ授業」をめざした授業改善 ア 各種検定への参加 イ 授業公開と研究授業の実施 ウ 授業アンケートの活用</p>	<p>(1) ア・各エリア会議の議論を教務部が集約して、エリアの特色が一層生かされ、また生徒の進路希望にもより応えられるようにカリキュラムの改善策を検討する。 ・各エリアの特色を最大限に生かし、生徒一人一人の自己（進路）実現に対応するためのガイダンスを充実させる。 ・ICT機器の導入等、エリアの授業充実のための環境整備を行う。 イ・外部講師の招へいや外部機関と連携した体験授業実施等を通じて、エリアの授業を充実させる。 (2) ア・「朝学」の実施や漢字検定等様々な検定への参加を働きかけることにより、生徒の基礎的・基本的な力の定着・増進をはかる。 イ・指導教諭や教務主任を中心とする授業改善委員会が主体となって、年2回（6月、11月）に授業公開週間を設定し、すべての教科で研究授業を行い、授業改善の研究協議を行うことにより、授業改善に資する。 ウ・授業アンケートを、年2回（7月、12月）に実施し、授業改善に資するその結果の効果的な利活用を図る。 授業観察の提言シートを作成し、活用を図りたい。</p>	<p>(1) ア・普通科総合選択の生徒アンケートの中の『「普総選」で学んだこと』への満足度、昨年の水準を維持する（H25 83.7%） 同アンケートの中の「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある」への肯定的回答率を昨年以上とする。（H25 62%） ・同アンケートの「自由選択科目は進路実現に役立った」に対する肯定的回答率を昨年以上とする。（H25 70.7%） イ・同アンケート「エリアの学習は興味・関心を満足させた」への肯定的回答率を昨年以上とする。（H25 75.5%） (2) ア・各種検定、上級の合格者数等昨年度の実績を上回る。 漢検 上級（準2級以上）の合格者 （H25 延べ98人、2級3人、準2級29人、3級66人） 英検 上級（準2級以上）合格者数 （H25 準2級 3人 3級26人） サービス接遇 上級（2級以上）の合格者数 （H25 2級合格者数 8人 3級36人） イ・学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率を6割以上とする（H25 53%） 同アンケートの生徒の授業満足度（H25 41%）を10ポイント上昇させる。 普通科総合選択制の生徒アンケートの中の「身についた学力」の中の、「考える力」「表現する力」「発表する力」「コミュニケーション力」「調べる力」の肯定的回答率を、それぞれ昨年以上とする。</p>	<p>(1) 再編整備に向けて、将来構想委員会を立ち上げ、その準備をスタートさせたところであったが、11月に専門コース設置校としての改編が決まった。教頭・事務長・首席・指導教諭を中心にPTを組織し、学校のミッション、めざす学校像、生徒に育みたい力を明確にしつつ、これまでの本校の取組を踏まえ、進路指導部や各教科との意思疎通を図りながら、その枠組みを決めることができた。○ ただ、3年生だけに実施したアンケート結果では、『「普総選」で学んだこと』への満足度（H26 77.9%）、「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある」（H26 49.3%）、「自由選択科目は進路実現に役立った」（H26 53.3%）、「エリアの学習は興味・関心を満足させた」（H26 70.8%）と、昨年を下回った。△ 四天王寺大学との高大連携授業（対象は2年生）を計8回（「教育」「英語」参加人数延べ約300人）するなど、「各エリア」での授業を充実することができた。学校教育自己診断「大学をはじめ外部の先生から授業を受ける機会がある」（64%→73%）○ (2) ア 朝学は年間通して実施し、1・2年生の漢検は、1・2年生が1月末に団体受検。サービス接遇検定はPTAの協力も得ながら、希望者に対し実施。準1級（指導者レベル）にも合格するなど、成果をあげた。これについては、PTAや学校協議会委員からも、豊かな人間性を育む取組として高く評価していただいた。○ Data 漢検 2級3人 準2級 26人 英検 準2級 7人 サービス接遇検定（受験者/合格者 準1級3/3、2級10/27、3級35/59） イ ・授業公開週間やパッケージ支援研修と連動させた授業力改善のための校内研修会を実施した。授業アンケートの学校平均（計2回）すべての項目でH25年度を上回った（H25 3.01 H26 3.07）、項目別では「予復習」0.14、「授業改善」0.09、「興味関心」0.09、「知識技能」0.10UP）となっている。苦手だった科目（数学や英語）がわかるようになったという記述が多く見られた。また、学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」（53%→60%）「授業満足度」（41%→49%）とほぼ評価指標を達成している。3年生だけの『「普総選」アンケート結果は昨年を下回っているが、学校自己診断の「授業で発表する機会がある」（31%→42%）「他の先生が授業を見学に来る」（29%→35%）と肯定的回答率が昨年よりアップするなど、授業改善の取組の成果はあったと考えている。○ 次年度ICT機器を整備や職員間の“学び合い”のさらなる活性化により、授業改善の取組を進めていきたい。 ※学校教育自己診断は2月実施。 『普総選アンケート』（H25→H26） 「考える力」79.3→63.8、「表現する力」71.2→62.8 「発表する力」60.3→61.8、「調べる力」71.7→59.8 「コミュニケーション力」75.5→62.8</p>
基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築	<p>(1) ルールやマナーを守る、規範意識に富んだ生徒を育成する取組み ア 「遅刻撲滅週間」の実施 イ 「おはよう」運動の展開 ウ 制服指導や交通安全指導等の推進 (2) 教育相談体制の確立 ア 教育相談委員会の活性化 イ 支援教育コーディネーターの活用</p>	<p>(1) ア・年3回のあいさつ週間（2週間）を実施し、全教員が輪番で朝の立ち番指導を行う。 ・業間遅刻をなくすため、毎授業「5分前集合」「2分前着席」の声かけをして徹底を図る。 イ・朝のあいさつ「おはよう運動」を、毎日展開する。 ウ・警察等の外部組織から講師を招いて薬物や交通安全についての講習会を実施するとともに、全教職員が一致した基準で指導することを通じて、生徒の規範意識を高める。 (2) ア・隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議で全教員が情報を共有する。 ・担任のカウンセリングマインドを高める研修を実施するとともに、教育相談室の整備・拡充及び活用促進のための周知徹底等、日常の相談体制を強化する。 イ・特別支援教育コーディネーターを中心に、課題のある生徒の学校生活を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒の年間遅刻総数を1200以下にする。（平成25年度 1585） イ・学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合（平成25年度74%）を80%にする。 ウ・学校教育自己診断における「ルールを守って生活している」生徒の割合（平成25年度84%）を維持する。また、「同じ基準での生徒指導」への肯定的回答率を（同50%）を60%にする。 (2) ア・月に2回以上、支援会議を行う。学校教育自己診断における「相談できる体制ができている」生徒の割合（平成25年度50%）を60%にする。 イ・支援を必要とする生徒の支援を充実させる。 当該生徒・保護者との面談やカウンセリングの回数</p>	<p>(1) 昨年度同様、全教職員輪番で遅刻指導にあたっている。今年度はあいさつを重点に朝の指導を行った。「遅刻したその日に指導する」が定着したこともあり、遅刻は今年も大幅に減少。年間目標を達成した。 また、通学マナー等外部からの苦情の声はほとんどなく、近隣や地域からはよく挨拶してくれるとの声もいただいた。◎ Data 朝のSHR時の遅刻者数 922 前年比 -670 42%減 1年205（150減）2年349（-76減）3年368（-444減） 学校教育自己診断の「挨拶をする」（74%→75%）、「ルールを守って生活している」（H26 84%→89%）、「同じ基準での生徒指導」（49%→52%）とほぼ目標を達成することができたが、次年度は生徒の自主性を育む観点から、ノーチャイムデーの実施も考えている。 (2) 隔週に教育相談委員会を開催（2学期末現在12回）、月ごとに欠席調査を行い、学年等へのフィードバックと職員会議での報告等により、生徒状況の把握と情報共有に努めるとともに、支援の必要な生徒への素早い対応を行った。障がいや疾病等で支援の必要な生徒には、保護者とも密に連絡を取りながら、授業や定期考査等で必要な配慮を行った。不登校数も昨年より大きく減少した。学校教育自己診断の「相談できる体制ができている」（53%→59%）、「困っていることに真剣に対応してくれる」（49%→56%）と生徒が相談できる支援する体制は整いつつある。○ 相談回数は、相談室利用63回、面談回数95回（SC 25回、コーディネーター 70）となっている。引き続き、生徒の変化をキャッチし、傾聴を基本として生徒を支援する体制の充実を図っていきたい。</p>

府立懐風館高等学校

<p>「志」や「夢」の実現に向けた指導・支援の充実</p>	<p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育の推進 ア 自己(進路)実現に向けた学年ごとのキャリア教育指導計画の策定 イ 各学年、各教科による基礎学力の保障及び卒業後の進路保障</p> <p>(2) 豊かな人間性を形成するための人権教育の推進 ア 3年間の教育活動を通じた人権教育の指導計画の策定</p>	<p>(1) ア・進路指導部が主体となり、生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現のため、進路関係行事の実施計画を立案し、学年等と連携しながら実施する。 第1学年 進路体験行事、進路講演会 第2学年 懐風館セミナー(大学等の出前講義) キャリア・ダンス等、 第3学年 分野別説明会、進路講演会 ・教育産業とも連携しながら、生徒の自己実現に向けた意識高揚を図る取組み(学力判定テスト、模擬試験等)を実施する。 イ・教務部が主導して成績不振者を対象とする補習を全学年において全教科を実施する。 ・進路指導部が主導して進学・就職等の目標に応じた希望者を対象とする講習を実施する。第2学年においては国語、数学、英語を実施する。また第3学年においては全教科40回以上を実施する ・生徒が自ら学ぶ意欲を高めるように働きかけを強め、その機会や環境の整備(自習スペース等)の充実を図る。</p> <p>(2) ア・入学から卒業までの、重要な人権課題をテーマとした総合的な学習を実施するための指導計画を策定する。 ・身近な生活の中で生起する人権課題(SNSによるいじめ)や障がい者理解を学ぶ機会を設ける。 ・すべての教育活動において、人権感覚を養う取組みを行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断で「進路についての情報提供が役立った」生徒が70%を上回ること。 ・出前講義等、行事実施後のアンケートで生徒の肯定的回答率が90%を上回ること。 イ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の肯定的回答率が30%を上回ること。(H25 27%) ・学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習(講習・家庭学習等)をしている」生徒の肯定的回答率が3割を上回ること。(H25 18%) ・講習等の実施回数 昨年度の実績を上回ること 【H25年度の進学講習実績】 1年(英語) 2年(数学)で継続的に実施。3年では、各教科において放課後や長期休暇中に実施した。始業前での講習も継続的に実施した(数学・毎日、英語・週2)。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が70%を上回ること(H25 64%) ・学校教育自己診断で「人権について学ぶ機会がある」生徒が60%を上回ること。(H25 49%)</p>	<p>(1) ア. 学年ごとの「進路の手引き」の発刊や進路行事の見直しを図りながら、生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現のため、進路行事を実施した。進路行事実施後のアンケートでの生徒の肯定的回答率は高く、目標を達成している。(○) Data(学校教育自己診断結果) 「情報提供が役立った」(72%→74%) 「将来の進路や生き方を考える機会がある」(71%→73%) イ. 今年度の3年生は、これまでの卒業生に比べ、学習面や生活面で課題のある生徒もおり、心配していたが、教員の粘り強い指導とそれに応えた生徒の頑張りにより、進路実績は昨年と比べても落ち込んではいない。むしろ、今年度は1月以降の一般入試の受験者が多く、進学数は昨年度を上回る結果(4年生大学への進学者数は昨年より10人増)となった。(○) 講習については、始業前、放課後、長期休暇中に継続的に実施した。ただ、夏季休業中に教室棟の耐震工事が実施されたこともあり、講習場所の確保が難しかった。家庭学習の習慣づいていない生徒が多く、大きな課題である。家庭での学習を習慣づける効果的な取組みを検討・実施する必要がある。(△) 〈学校教育自己診断結果〉 「放課後や早朝の講習参加」(26%→24%)、「授業以外での学習時間1時間以上」(19%→19%)</p> <p>(2) 「総合的な学習の時間」やLHRの機会を通じて、身近な生活の中で生起する人権課題を学ぶ機会を確保するとともに、「生き方」や「命の大切さ」を考える参加体験的学び(「性と生を考える」講演会)、障がい者理解を深める学習(「可能性を信じて～変化する素晴らしさ～パラリンピックを通して」)の機会をもった。自己診断の結果からは成果指標はクリアした。ただ、豊かな人間性や人権感覚を育むための総合的な計画は作成途上で、次年度は「総合的な学習の時間やLHRを有機的に連携させながら学年ごとの年間計画を作成し、実施していきたい。(○) 〈学校教育自己診断結果〉 「生き方、命の大切さ、社会のルールを学ぶ機会がある」(64%→69%)、「人権について学ぶ機会がある」(50%→62%)</p>
<p>地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 生徒の学校説明会等への参加 イ 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実 ウ ICT等を活用した情報提供、広報の充実。</p> <p>(2) 地域と連携した取り組みの推進 ア 地域と連携した生徒の自主的な活動を通して、自己有用感を醸成 イ 生徒が主体的に参加する環境保全、環境美化活動の推進 ウ PTA等と連携した校内緑化等の取組みの推進 エ 安全・安心を高める取組みの推進 オ 地域と連携した講座(土曜講座)を開催する。</p>	<p>(1) ア・学校説明会、授業体験、部活動体験会への部活動などの生徒の参加を広く働きかけ、生徒の自らが学校の良さをアピールできる機会を設ける。 イ・学校紹介の資料を作成し、地域(羽曳野、富田林、藤井寺などの南河内地区や隣接する柏原、八尾など中河内地区を中心に全中学校訪問を全教職員で行うとともに、校外への説明会、出前授業を拡充する。懐風館の良さをアピール、目的意識を持った生徒の増加を図る。 ウ・HPを随時更新することにより、本校の取り組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等を行い、保護者への適切な情報提供を行う。</p> <p>(2) ア・支援学校との交流(富田林支援学校)や地元の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高める。 イ・地域と連携した環境保全(カワバタモロコ^ク絶滅危惧種)の保全等・環境美化(通学路清掃等)の活動を行う。 ウ・PTA等と協力して、「あいさつ運動」や校内緑化活動を推進する。 エ・地域や外部機関と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みや環境整備をすすめる。(熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等) オ 今年度から、地域の外部人材を活用しながら、生徒や保護者や地域を対象とした土曜講座等を開催する。</p>	<p>ア 学校説明会・授業体験・部活動体験への参加者数 昨年以上とする。(H25:525名 学校実施分) イ 学校外での説明会等への参加者数を昨年以上とする。(H25:680名) ウ HPの更新数、メール等の配信回数を昨年以上とする。(H25 HPの更新回数 78回 メール配信回数49回) (2) ア・それぞれの活動に参加する生徒数 (H25 支援学校との交流参加92人) イ・カワバタモロコ保護活動は、次のステップに入る(「飼育による保護」のための繁殖里親の募集)。講習会や意見交換会の開催回数並びに参加者数。 ウ・学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合(平成25年度74%)を80%にする ・学校教育自己診断における「校内の花や緑が増えた」の割合を70%以上にする。(H25 68%) エ・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が70%を上回ること(H25 64%) オ・土曜講座の開催回数ならびに参加人数</p>	<p>(1) ア・イ ・学校での説明会等を5回(部活動体験2回、授業体験1回・説明会2回)実施するとともに、学校訪問や校外での説明会への参加など、積極的な広報活動を展開した。校内・校外での説明会参加者数(H26校内570、あと1回実施、校外700)と昨年を上回った。また参加者の満足度も高かった。(○) 全教職員が分担して中学校訪問を行ったが、9月に再編対象校の予定となり、先の見通しを語りにくい状況の中での広報活動には苦労した。次年度は、専門コースを含めた改編による変更点や進路実現ために利点を中学生・保護者にわかりやすく伝えていきたい。 ウ ・HPを一部リニューアルしながら随時更新に努めるとともに学年ごとにメール配信を実施し、目標数値はクリアした。(○) (HPの更新回数91回 メール配信回数125回) (2) 《設定目標》に掲げた地域との連携した取組みは実施することができた。このうち、支援学校との交流会は台風接近のため、1回実施することができなかった(参加者50名)、また土曜講座は2回(参加者50人)であったが、カワバタモロコの保護活動をはじめ、地域と連携したそれ以外の取組みは、ほぼ予定通り実施することができた。特に成果があったものを次の2つである。 ① 四天王寺大学との高大連携・計8回(「教育」「英語」参加人数延べ約300人)。ICT機器を使った授業や専門的な知識・技能に接することができ、生徒の学ぶ意欲を高める機会となった。 ② 自動車メーカーを外部講師に招いた実践的な交通安全教室の開催…生徒が体験する中で、交通安全についての理解を深めることができた。通学マナーに対する苦情が大きく減少した学校協議会や近隣の中学校からは学校の教育活動に対し、「よく頑張っている」「落ち着いている」など、好意的な評価をいただいている。(○) 現在は、専門コース設置に向けて、地域と連携した「体験を重視した科目」を設置することを計画し、関連機関との協議を始めている。羽曳野市をはじめ協力的で積極的に支援してくれる意向を示してくれているので、次年度は地域連携をさらに進めていきたい。 〈学校教育自己診断結果〉 「挨拶をする」(74%→75%)「緑が増えた」(68%→68%)「生き方、命の大切さ、社会のルールを学ぶ機会がある」(64%→69%)、「人権について学ぶ機会がある」(50%→62%)</p>